様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(A)（海外学術調査）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０１６４８

研究課題名（和文）グローバル化における権力編成の変動と新たなコミュニティ運動―東南アジア大陸部から

研究課題名（英文）Community Movement in Mainland South East Asia under the Transforming Power Formation in Globalized World

研究代表者
西井　凉子（Nishii, Ryoko）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：２０２６２２１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　27,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究代表者・研究分担者9 名が、カンボジア、ラオス、タイ、ビルマ（ミャンマー）を中心とした東南アジア大陸部の各国でコロナ状況での中断をを挟んで臨地調査を実施し、ミクロなフィールドの現場における権力布置の実態把握を、いかにマクロな分析につなげることができるのかについて、ミクロ‐マクロ両面から東南アジア全般の権力状況の分析を行った。最終年度には、これまでの調査データをとりまとめて、本研究の成果論集を、Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblagesとして刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、現在大きな転換期を迎えている東南アジア大陸部の社会の現状を、マクロな視点からはみえにくい人びとの日常生活の中から明らかにするもので、国家に翻弄される人びとの現実によりそって東南アジア社会の理解を深める社会的意義を有する。また、本研究で着目する危機的状況は、政治的、経済的危機のみならず、人びとの日常に浸透する不確実性の感覚を含めて、個の行為・実践レベルで変化が要請されるような状況をさす。こうした個における実践が社会運動へとつながり、共同性が生成されていく具体的プロセスをフィールドワークによって把握することで、ミクロとマクロをつないで、人間の共同性に新たな視座を提示する理論的意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：In this study, nine researchers conducted fieldworks in various countries in mainland Southeast Asia, mainly in Cambodia, Laos, Thailand, and Burma(Myanmar), interspersing interruptions in covid 19's situations, to analyze the power distribution in the micro-fields in the field and how it can be connected to macro analysis. We analyzed the power situation in Southeast Asia in general from both micro and macro perspectives. In the final year of the project, we compiled the data from the surveys and published a volume of research findings as Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages.

研究分野：文化人類学、東南アジア地域研究

キーワード：コミュニティ運動　東南アジア　共同性　アセンブレッジ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究開始当初には、大きな転換期を迎えている東南アジア大陸部社会の中で、ミャンマーはこれまでの軍事独裁支配が終わり大きく民主化の方向へと転換した一方で、それゆえにこそ従来表に出なかった民族・宗教対立、社会問題といった内部の問題が噴出していた（その後、ミャンマーは軍事クーデタによって民主化から大きく後退した。）タイは民主化とは逆行するような軍事政権となっており、国民から支持されている国王が高齢で健康状態が懸念される中、今後政治的混乱が予想された。カンボジアやラオスは一党独裁体制が続いているが、政府主導の開発政策が人びとの生活を圧迫し不満が高まっていた。

また、近年の東南アジア社会におけるモダニティの進展やソーシャル・メディアの浸透により、新たなネットワーク化が加速化され、日常生活における個々人のミクロな繋がりを媒介とした新たな変化がみられる。

東南アジアの政治体制は、家父長的リーダーシップやパトロン・クライアント関係など上からの統治を認めやすい要因として社会・文化的に考察されてきたが、現在転換期にある東南アジア社会は、こうした従来の見方では理解できない事態となっている。よりミクロな個々の人の行為や実践に着目し、人びとがどのような現実と向き合い、どのような関係を結び、それらがどのように社会変革に結びつくのかについては、現場に密着したフィールドワークによってしか明らかにできないであろう。

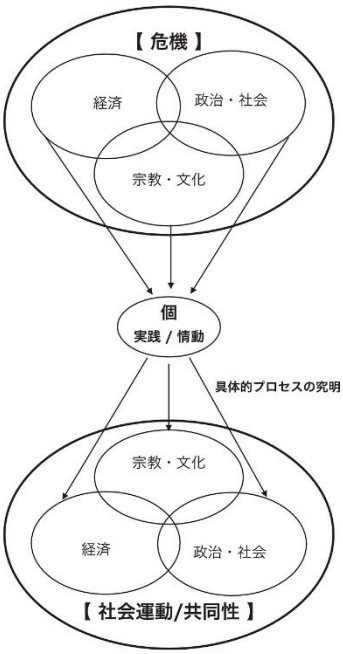

図１　共同研究の概念図

1960 年代以降出現したフェミニスト運動やエコロジー運動など、国家による統治機構に社会的正義や民主的なふるまいを求めるよりは自分たちで独自の価値観やライフスタイルに基づくオルタナティブなコミュニティを実現しようとする「新しい社会運動」と呼ばれる運動がある。こうした運動は、社会的、政治的な目的実現のための手段というよりは、集合的な活動そのものが目的であり、ライフスタイルの実践と社会変革が相補的なものとみなされるといった特徴があるとされる。これらの運動は、あらかじめ独自の価値観や信念の共有を前提として共同性を捉えることができないという点において、本研究の社会運動の視点と重なる。ここで重要となるのは、個々のメンバーの差異や創造性がいかに共同性を成立させ、また変容させていくのかについて、メンバー間の相互作用によって形成されていくプロセスであるとみる。

本研究は、以上のような社会・政治的状況と、理論的視座を背景としている。

２．研究の目的

現在、東南アジア大陸部の社会は大きな転換期を迎えている。本研究の目的は、今後

数年の間に激動が予想されるこれらの社会における社会変革の胎動を、国家や政党といった政治的アクターの動きのみではなく、日常生活における繋がりを媒介として、個々の生のあり方や実践に着目して、運動や共同性がいかに生み出されるのかを明らかにすることである。本研究でいう危機的状況とは、政治的、経済的危機のみならず、人びとの日常に浸透する不確実性の感覚を含めて、個の行為・実践レベルで変化が要請されるような危機的状況をさす。こうした危機的状況においては個の行為・実践の変化が要請され、本研究では個における実践と共同性が生成され社会運動へとつながっていく具体的プロセスをフィールドワークによって把握する。それにより、現在の大陸部東南アジアにおける現実を明らかとし、人間の共同性へ新たな見方を提示することをめざす。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者・研究分担者 9 名、および海外の研究協力者 4 名の計 13 名が、タイ、ラオス、ミャンマーを中心とした東南アジア大陸部の各地において、危機状況下の社会の社会運動の実態を調査し、共同研究を行うことで、国家の枠組みを超えた同時代的な社会変動・変化の胎動を捉える。

研究方法としては、それぞれ 30 日程度の現地調査や関連資料の収集が中心的手法とし、現地調査によって得られたデータをもちより共同研究を行うことにより、社会運動や共同性について設定した課題にそって理論的探求を行った。本研究は、危機状況下の社会運動を研究対象とするため、突発的な社会・政治状況の変化の影響を受ける可能性はあった。ただ、研究分担者はそれぞれの対象の専門家であり、十全な情報を把握しており、調査地選択に関しては、全員が複数の選択肢を立てて臨んでいるが、問題が生じた場合には、必要に応じて調査地を変更するなど研究計画を修正する計画であった。しかし、後に述べるように新型コロナ感染の影響によりすべてのメンバーが現地調査に行くことができない期間が 2 年間に及ぶことは想定外であった。

研究代表者と研究分担者の分担内容や調査実施国・地域は次の通りである。

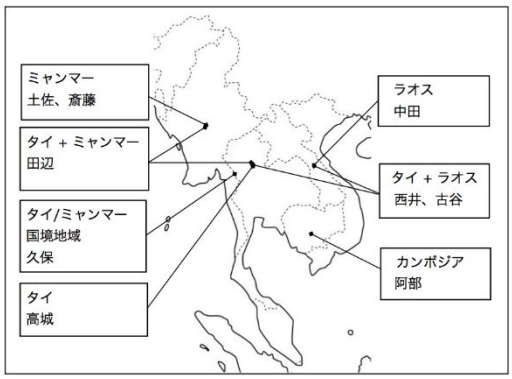

図２　調査地域（左）

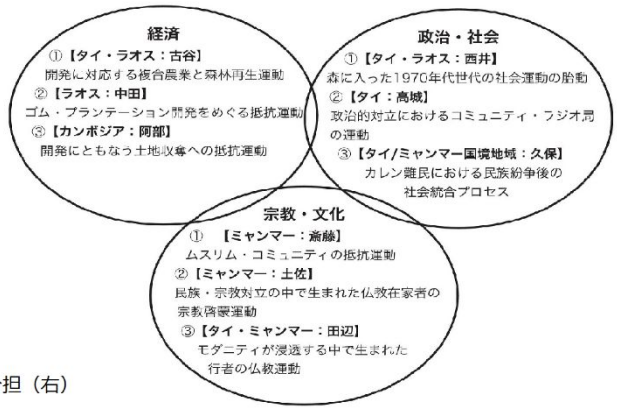

図３　研究構成と分担（右）

2 年目の、2018 年 8 月 24 日から 25 日にかけてミャンマーのヤンゴン大学において、ミャンマーの研究協力者の協力のもと、"Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia"と題する中間的な成果報告会である国際ワークシップを開催した。

3 年目は引き続き各自フィールドワークを行い、最終年の 2020 年 9 月にチェンマイ

大学で、海外の研究協力者をまじえた国際シンポジウム "New Aspects of Community Movements in Southeast Asia"を、開始する予定であった。そこでは英語による論文発表を行い、それをもとに、各自論文執筆を行い、英語による成果論集の出版を考えていた。しかし、新型コロナウィルス感染が蔓延したため、海外調査はおろか、国内での対面でも研究会もできない状況となった。国際シンポジウムは、現地の研究料力者の参加のもと、9 月 10 日にオンラインで開催することとなったが、しれをもとして成果論集は、コロナ感染症蔓延による中断後、2022 年に刊行した。

４．研究成果

本研究の成果論集として、延期後の最終年度の2022年に刊行したのは、NISHII, Ryoko and TANABE, Shigeharu (eds.) Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages. (2022-03, Chaing Mai: Silkworm books)である。本書の要点を記することで、研究成果を示したい。

まず、本研究成果の中心的概念である「コミュニティ運動」を、国家を相対化する視点として位置づける。その際、権力の作用や編成を、抽象化した政治的アイデンティティや制度的構成よりも、人びとが生きる日常生活において行っている、ミクロな運動のなかにみる。分析においては、そこにおける偶然性、多様性、ネットワーク編成などによって生成される運動のプロセスを、その動的編成であるアセンブレッジ概念によって捉える。それによって、現在の大陸部東南アジアにおける現実を明らかにし、人間の共同性についての新たな見方を提示した。

以下では、１）国家と暴力、２）国家を相対化する視点としてのコミュニティ運動、３）アセンブリッジとしてのコミュニティ運動の３つの項目にそって記述する。

１）国家と暴力

近年、世界では、暴力装置としての国家の姿がむき出しであらわれているようにみえる事例に満ちている。アラブの春の破綻、香港やタイ、ミャンマーにおける民主化を求めるデモの武力による鎮圧など、国民を保護する国家ではなく、抑圧する暴力装置としての国家の姿がクローズアップされる。民主化は、国語の制定や公教育の実施のよる文化共同体としての国民を形作ることである。国家の暴力が「民主化」されることでもたらされる最大の効果とは、国家と住民のあいだから軍事的対立の図式が消えるということである。

しかし、現在の東南アジアのミャンマーやタイ、さらに香港など強大な国家権力や暴力装置である軍が支配する政権に対峙して民主化を求めるデモでは、民衆はときにこの二択状態に置かれる状況が発生している。ただし、それは歴史的に始原の暴力装置として発生した国家から国民国家へと民主化がすすむ途上にあるという進歩歴史観による発展の途上で捉えることはできない事態である。そこで起こっていることは、むしろ原理的な国家のあり方に立ち返り、制度的な装置としての国家の存在の必然性を前提とする見方を相対化することでみえてくる権力の働きのあり方の一つであるといえよう。

２）国家を相対化する視点としてのコミュニティ運動

国家を相対化する視点は、近年グレーバーやスコットらによって示されている。それは、国家なき平等な集合性を政治的な理想とするアナーキズムにみられる。既存の「国家」といった有機的全体性を所与のものとせず、わたしたちが生活している日々の物理

的、制度的なものも含む環境において生きていることから出発することで、これまでの慣習的思考から解き放たれて、柔軟に現実に接近することができると考える。

本書が主題とする「コミュニティ運動」は、こうした領土と国民を一体とした国家を不可欠なものとして前提とした視野を相対化しつつ、人びとの集合性における権力的なものの働きを人びとの生活の中からみようとする試みである。「コミュニティ運動」の概念は、成果論集の共編者である田辺によって提案されたもので、この概念をテーマとした本研究会の前身でもある共同研究会の成果論集が Communities of Potential: Social Assemblages in Thailand and Beyond(2016 年)として刊行されている。「コミュニティ運動」は、「コミュニティ」と「社会運動」から構想された概念であり、それによって、これまでの見方ではとらえられなかった現実におこりつつある社会的なるもの捉えようとする。「コミュニティ運動」におけるコミュニティでは、想像的なものとして捉えられる関係性がよりミクロな対面的、身体的関係を核にもつ運動において、どのように見出せるのかを焦点化する。

そこでは、人びとは国家の内部にあっては権力編成に組み込まれ、また国家を超えた国際機関のネットワークにつらなっている。人びとが生きる場においてみいだされる「コミュニティ運動」は、たんにコミュニティに作用し、人びとを行為に駆り立てようとする権力編成に巻き込まれ従属するだけでない。それはむしろ、自らの生を成り立たせるために、抵抗し、改変しようとするミクロな運動のプロセスそのものである。本書が、「コミュニティ」と「社会運動」から編み出した「コミュニティ運動」という概念で捉えようとするのは、逃れられない権力作用のもとで人びとが生活において行っているプロセスである。それをフィールドの現場から照射した。

３）アセンブリッジとしてのコミュニティ運動

アセンブレッジとしての「コミュニティ運動」は、これまでの社会運動の連帯や団結など、ある種の同質性を前提としたものとは異なっている。さらにそれは、異質で多様な人びとの間の構造化されていない相互関係としてのコミュニタスが偶然のなりゆきによって編成され、ダイナミズムが生み出されていく過程を特徴とする。国家といった確固としているようにみえる制度的実在をあらかじめ措定して、そこから出発するのではない。国家やさまざまな制度的構築物もまたアセンブリッジを構成しつつ変化するものである。「コミュニティ運動」の概念は、そこに人々が巻き込まれ、翻弄されつつも、よりよい生を求めて生き抜こうとしていく人々の運動の過程を捉える試みである。つまり、本研究はアセンブレッジとしての「コミュニティ運動」によって、国家を相対化する視点を保持しながら、人びとが生きる日常生活において行っているミクロな運動の実態を示した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 久保忠行	４．巻 1
２．論文標題 環流する知識と経験;難民の「帰還」とシティズンシップ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 政治主体としての移民／難民,人の移動が織り成す社会とシティズンシップ	６．最初と最後の頁 169-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 古谷　伸子	４．巻 1
２．論文標題 民間療法	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東南アジア文化事典	６．最初と最後の頁 247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 斉藤紋子	４．巻 1
２．論文標題 民主化による新たな試練とムスリムコミュニティ	５．発行年 2020年
３．雑誌名 転換期のミャンマーを生きる　「統制」と公 共性の人類学	６．最初と最後の頁 165,184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高城玲	４．巻 94
２．論文標題 タイ農村とコミュニティへの視座ーエンブリーからコミュニティ文化論、そしてその先へ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 神奈川大学評論	６．最初と最後の頁 110,119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Nishii, Ryoko	4．巻 1
2．論文標題 A Corpse Neccessitates Disentangled relationships: Boundary Transgression and Boundary-Making in a Buddhist-Muslim Village in Southern Thailand	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Buddhist-Muslim Relations in a Theravada World	6．最初と最後の頁 169, 195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Tanabe, Shigeharu	4．巻 43-3
2．論文標題 An Animic Regime Subjugated: The Pu Sae Na Sae Spirit Cult in Chiang Mai	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『国立民族学博物館研究報告』 (Bulletin of the National Museum of Ethnology)	6．最初と最後の頁 391,442
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 古谷　伸子	4．巻 65
2．論文標題 民間医療復興の地域的特徴について―東北タイ・サコンナコン県の事例から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 哲学論集	6．最初と最後の頁 23,37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久保忠行	4．巻 8
2．論文標題 序論：収容、制度化と被収容者の経験（特集：難民と収容）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 難民研究ジャーナル	6．最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 斎藤紋子	4．巻 30
2．論文標題 ミャンマーにおけるムスリム	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『ロヒンギャ難民の生存基盤－ビルマ／ミャンマーにおける背景と、マレーシア、インドネシア、パキスタンにおける現地社会との関係』　SIASワーキングペーパーシリーズ	6．最初と最後の頁 19,38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久保忠行	4．巻 23
2．論文標題 難民研究へのアプローチ－人類学の視点から	5．発行年 2017年
3．雑誌名 移民研究年報	6．最初と最後の頁 7,20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計24件（うち招待講演　2件／うち国際学会　20件）

1．発表者名 Saito, Ayako
2．発表標題 Bamar Muslims and their reactions towards the present Myanmar society: What was made clear through their explanation in Burmese?
3．学会等名 Myanmar Studies without Burmese? On how and why language still matters for area studies（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 Tosa, Keiko
2．発表標題 The Diffusion of Free Funeral Services (Naye Kunihmu Athin) among the Burmese Buddhist Society
3．学会等名 Seminar and Round Table Discussion: Anthropological Study on Religion: Activities of CBOs and NGOs in Myanmar（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Nakata,Tomoko
２．発表標題 Why do they dare to clear protected forests?: Discourses and practices of local communities in the face of a rubber plantation development project in Southern Laos
３．学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences)　Inter-Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nishii, Ryoko
２．発表標題 Touching the Body at Death: Muslim-Buddhist co-existence in Southern Thailand
３．学会等名 Workshop Radical Embodied Cognition, 科研費新学術領域「顔・身体学」計画班「顔と身体表現の比較現象学」
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nishii, Ryoko
２．発表標題 Convert’s body as an arena of entangled Muslim-Buddhist relationships in a Southern Thai village
３．学会等名 International Conference on Resources and Human Mobility (Jointly organized by Mahidol University International College
４．発表年 2019年

１．発表者名 Abe, Toshihiro
２．発表標題 Street Art and Urban Development
３．学会等名 Rethinking “Community”: From Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nobuko Koya
２．発表標題 Integrated Agriculture and Community Development in Northeast Thailand
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kubo, Tadayuki
２．発表標題 Ethnic Language Education in Kayah State
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Takagi, Ryo
２．発表標題 Community and Voice: Community Radio in Northern Thailand
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Saito, Ayako
２．発表標題 Historical narratives in a Myanmar Muslim community
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, Shigeharu
２．発表標題 Towards the Non-Modern Constitution of Reality
３．学会等名 Research Seminar of the Thailand Research Fund (TRF)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, Shigehary
２．発表標題 Phi Chao Nai Revisited: In Memory of Ajarn Shalardchai Ramidhanond
３．学会等名 Research Seminar: “Remembering Ajarn Shalardchai Ramidhanond: Ritual, Beliefs, and Community’s Right in Sustainable Natural Resource Management”（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tanabe, Shigehary
２．発表標題 “Hasip pi nai Chiang Mai: kanseuksa kiao kap chumchon（チェンマイでの50年－コミュニティの研究から）”
３．学会等名 チェンマイ大学日本研究センター主催公開講演（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tosa, Keiko
２．発表標題 Transformation of Buddhist Associations into Non-Governmental Organizations in Myanmar
３．学会等名 Transformation of Buddhist Associations into Non-Governmental Organizations in Myanmar（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tosa, Keiko
２．発表標題 Dhamma School and religious education in Myanmar
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakata, Tomoko
２．発表標題 Negotiating development: local’s everyday practices in the face of large-scale rubber plantation and dam construction projects
３．学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 18th Inter-Congress (at Florianopolis, Brasil)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nakata,Tomoko
２．発表標題 Rubber plantation and community Development
３．学会等名 Rethinking “Community”: from Case Studies in Mainland South East Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中田友子
２．発表標題 開発批判のディスコースと地域住民のエージェンシー―南ラオスのゴム・プランテーション開発の事例から
３．学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 斎藤紋子
２．発表標題 ミャンマー社会と多宗教・多民族共生の難しさ：ムスリムの事例から
３．学会等名 東南 アジア学会第97回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tanabe, Shigeharu
２．発表標題 A Network of Magical Objects among the Hermits in King’s Mountain of Northern Thailand
３．学会等名 3th International Conference on Thai Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tosa, Keiko
２．発表標題 Uncivil NGOs: Mabatha and Confessional Communalism in Myanmar
３．学会等名 Institute on Culture, Religion, and World Affairs (CURA) at the Pardee School for Global Affairs（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koya, Nobuko
２．発表標題 Cultural Revival Among People Living in the Phu Phan Forest in Northeast Thailand
３．学会等名 13th International Conference on Thai Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nishii, Ryoko
２．発表標題 The Da'wa movement in Pai town-how to continue its passion
３．学会等名 13th International conference on Thai, Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nishii, Ryoko
２．発表標題 Converts and death：Muslim-Buddhist relationships in a Southern Thai village”, Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia
３．学会等名 東南アジアのイスラムと文化多様性に関する学際的研究（第三期）（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計10件

１．著者名 Abe, Toshihiro(ed.)	４．発行年 2019年
２．出版社 Silkworm books	５．総ページ数 309
３．書名 The Khmer Rouge Trials in Context	

１．著者名 土佐桂子（編著）	４．発行年 2020年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 330
３．書名 転換期のミャンマーを生きる：「統制」と公共性の人類学	

1．著者名 Abe, Toshihiro	4．発行年 2018年
2．出版社 Lynne Rienner Publishers/ Kyoto University Press	5．総ページ数 241
3．書名 Unintended Consequences in Transitional Justice: Social Recovery at the Local Level	

1．著者名 細谷広美、佐藤義明、杉山知子、関根久雄、洪恵子、ジャンヌ・W・シモン＆クラウディオ・ゴンサレス・パラ、岡田泰平、湖中真哉、石田慎一郎、久保忠行、土佐桂子	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 368
3．書名 グローバル化する＜正義＞の人類学：国際社会における法形成とローカリティ	

1．著者名 山本博史、菅原昭、内橋賢悟、ケイワン・アブドリ、森元晶文、藤村是清、高城玲、平川均	4．発行年 2019年
2．出版社 文眞堂	5．総ページ数 222
3．書名 アジアにおける民主主義と経済発展	

1．著者名 石川和雅、岩城考信、小河久志、香川めぐみ、日下部尚徳、久志本裕子、斎藤紋子、櫻田智恵、佐々木葉月、鈴木佑記、拓徹、中村沙絵、見市建、山田協太、渡邉暁子	4．発行年 2018年
2．出版社 イーストプレス	5．総ページ数 336
3．書名 アジアに生きるイスラーム	

１．著者名 高城玲、他	４．発行年 2018年
２．出版社 御茶の水書房	５．総ページ数 276
３．書名 帝国とナショナリズムの言説空間	

１．著者名 土佐桂子、他	４．発行年 2018年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 340
３．書名 歴史の生成	

１．著者名 高城玲、他	４．発行年 2018年
２．出版社 文眞堂	５．総ページ数 309
３．書名 アジア社会と水	

１．著者名 Ryoko Nishii、他	４．発行年 2018年
２．出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies(TUFS)	５．総ページ数 341
３．書名 Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia(Vol.2): Perspectives from Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand, and Cambodia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田辺　繁治 (Tanabe Shigeharu) (00045262)	国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授 (64401)	
研究分担者	久保　忠行 (Kubo Tadayuki) (10723827)	大妻女子大学・比較文化学部・准教授 (32604)	
研究分担者	斎藤　紋子 (Saito Ayako) (20512411)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員 (12603)	
研究分担者	古谷　伸子 (Koya Nobuko) (20514326)	大谷大学・社会学部・講師 (34301)	
研究分担者	中田　友子 (Nakata Tomokoto) (50508398)	神戸市外国語大学・外国語学部・教授 (24501)	
研究分担者	高城　玲 (Takagi Ryo) (60414041)	神奈川大学・経営学部・准教授 (32702)	
研究分担者	土佐　桂子 (Tosa Keiko) (90283853)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	阿部　利洋 (Abe Toshihiro) (90410969)	大谷大学・社会学部・教授 (34301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Rethinking “Community”: From Case Studies in Mainland South East Asia	2018年～2018年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関